

心不全

現在、心不全患者は全国120万人に達すると推定されています。

心臓病はがんに次いで死亡数の多い病気ですが、心臓病の中では心不全で亡くなる人がもつとも多いとされています。

原因

心不全とは、心臓が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん具合が悪くなり、生命を縮める病気です。原因は多岐にわたります。心筋梗塞や弁膜症のように心臓に直接原因があるもの、高血圧や糖尿病などが長期間心臓に影響をおよぼした結果起きるもの、貧血や薬剤など心不全の根本原因が心臓以外にあるものなど。中でも頻度が多いのは心筋梗塞などの動脈硬化が原因の心臓病、次いで高血圧に由来するもの、そして弁膜症によるものです。

症状

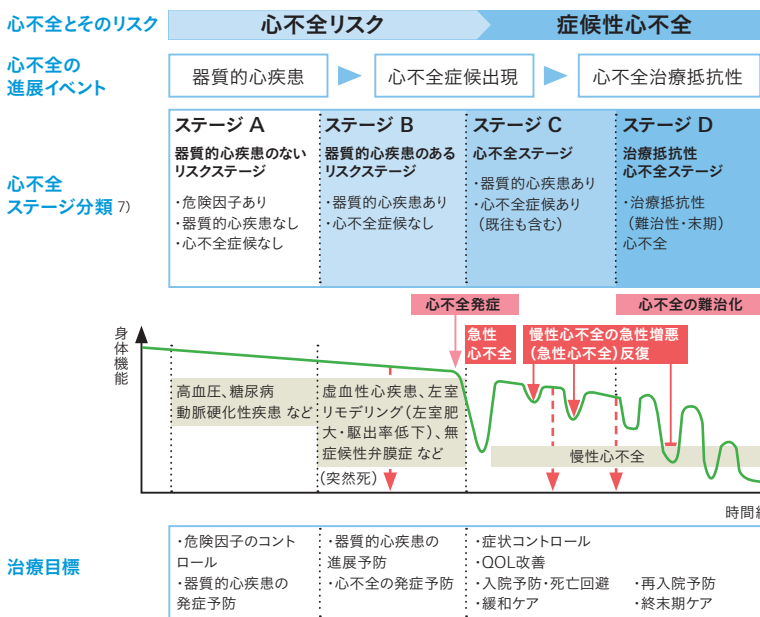
心不全を思うと血液や水分が体に貯留されます。特徴的な症状は、夜間仰向けに寝ていて2〜3時間後に起きてしまうほど急に息苦しくなるといふもの。夜中のせきや多尿など夜に症状が出やすいのも特徴です。足先のむくみ、動いたときの息切れ、食欲不振、体重増加も生じます。



日浅 芳一 名誉院長

医学博士。日本循環器学会循環器専門医。2019年3月まで徳島赤十字病院院長を務める。2019年4月から同院名誉院長として就任。日本のカテーテル風船治療の草分け的存在である。

図1 心不全とそのリスクの進展ステージ (厚生労働省, 2017より)



心不全の診断

問診、心臓の音や肺の呼吸音の聴診、肝臓や足先が腫れていないかを触診により診断を行います。胸の写

早期発見・早期治療が重要

治療は段階に応じて行います(図1参照)。

ステージAとBは厳密には心不全発症前であり発症予防の段階ですが、この段階の治療が極めて重要。ステージAでは高血圧、糖尿病、高コレステロール血症の治療を行い、ステージBでは心臓病を悪化させ心不全に進行しないような治療を行います。ステージCからは心不全の段階に入りま

す。ほとんどの場合、心不全を発症すると慢性的に進行し死に至ります。図のように、直線的に悪くなるのではなく、悪くなったり、良くなったりを繰り返しながら一段ずつ心臓は働きを落とします。心臓を長持ちさせるためには悪くならないようにすることが肝要で、そのために心臓を悪くさせる要因をとり除く必要があります。具体的要因としては①血圧が一時的に急上昇する②脈拍が急に多くなる③塩分や水分の摂り過ぎ④風邪などの感染症が挙げられます。また悪くなくても軽症にどめられるよう早期発見・早期治療も重要です。心不全の初期症状(体重増加、夜間多尿、食欲不振、

足首のむくみなど)を知っておき、そのような症状が出ればすぐに医師に相談しましょう。そして毎日起床時に体重や血圧を測定・記録し、医師に見せましょう。当院では、十分な問診を行い、丁寧に身体を診、心エコー検査を含む必要最低限の検査での確な診断と治療方針を決定。必要な場合には心臓カテーテル検査も行い、原因疾患の究明をしています。治療には、循環器専門医に看護師、管理栄養士、薬剤師、心臓リハビリテーション指導士が「心不全チーム」を組み、心臓に影響を与える種々の管理を総合的に行います。全職員が協力し合い、全力で生命を守り、みなさんが快適な生活が送れるよう支援します。

医療法人 雙立会 碩心館病院

小松島市江田町字大江田44-1
tel. 0885-32-3555
HPは「碩心館病院」で検索

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	×
14:30~17:30	●	●	●	●	●	●	×

※糖尿病内科は、月～金曜の予約制
※祝日は休診 ※眼科は水曜午前のみ診療
※整形外科は土曜午前のみ診療